

### 3 GIGA スクール時代の生徒指導

～1人1台端末導入に伴う生徒指導に関する考察 Part 2～

茨城県立守谷高等学校長 櫻井 隆之

#### 1 研究テーマ設定理由と調査研究の趣旨

令和4年度より、中学校時代に自分専用の端末で学んできた生徒が高等学校に入学してきたように、高校においては、GIGA スクール構想の実現に向け、令和4年度中に、令和4年度入学生の1人1台端末環境整備が完了し、令和6年度までには、学年進行による整備を進める自治体も含め、全学年の1人1台端末環境整備が完了する予定である。

今や校内には、Wi-Fi 環境が整備され、各教室には電子黒板が設置され、生徒たちが自席で端末を操作しながらの授業も珍しくなくなった。これまで、携帯電話やスマートフォンの使用に後ろ向き（抑制的・制限的）であった学校が、校内で端末を積極的に利用する時代に突入したのである。

このように、これまで経験したことのない「デジタル社会」に対応し始めたばかりの学校では、今、どのような変化が起きているのか、まずはその実態を把握する必要性を感じた。

そこで、生徒指導研究委員会としては、テーマを「GIGA スクール時代の生徒指導」～1人1台端末導入に伴う生徒指導に関する考察～とし、昨年度に引き続きアンケート調査を実施し、その結果を全国の高等学校の校長先生方と情報を共有することとした。

#### 2 回答母体の概要

本調査では、47都道府県から全日制普通高校6校を抽出し、アンケート調査を実施、282校の校長先生からご回答をいただいた。

以降の記述では、回答いただいた高等学校の回答率(%)で表していく。

なお、各質問の回答数等に若干の差異があることについては予めご理解いただきたい。

#### 3 調査研究の柱立て

まずは現状としてどのような整備状況になっているのか、そして端末の整備が進むなか、どのような生徒指導上の課題等が明らかになってきたのか、さらには生徒指導上の課題への対応も含めて、端末利活用上の好事例はないのだろうかという観点から、次の3点を柱とし、調査研究を実施した。

- (1) 1人1台端末整備の状況等
- (2) 1人1台端末導入に伴う生徒指導上の課題や対応の現状
- (3) 1人1台端末導入に伴う生徒指導上の効果的な指導・支援

#### 4 アンケート調査結果から

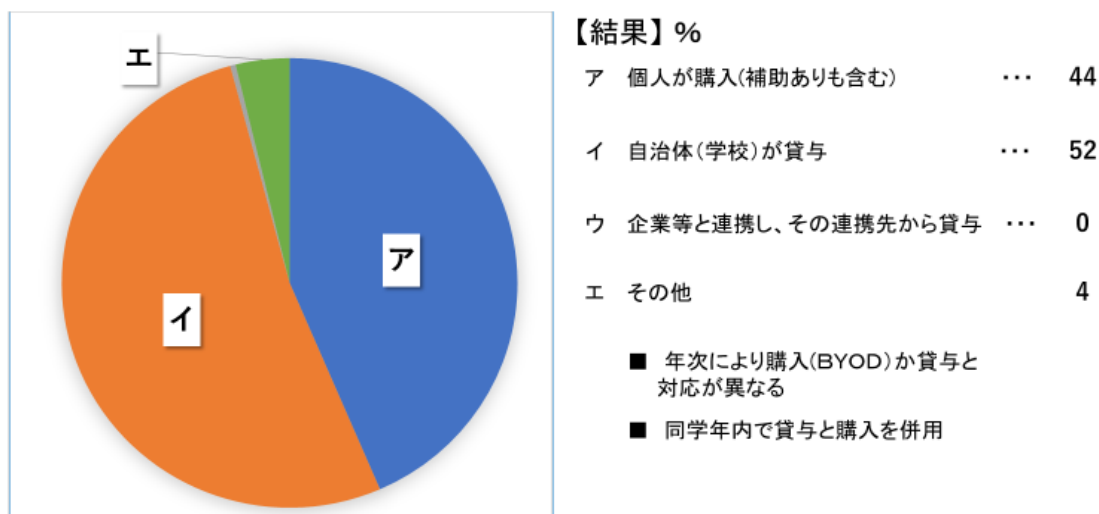
##### (1) 1人1台端末整備の状況等について

- ① 端末整備(準備)の方法【2(1)①】<sup>\*</sup> (※: アンケート調査の質問項目番号に対応)

「自治体(学校)が貸与」との回答が52%と最多で、次いで、「個人が購入(補助ありも含

む)」が44%であった。昨年同様、各自治体が貸与するか個人で準備するかに大別される。

## 2(1)① 端末整備(準備)の方法



### ② 個人購入の場合の端末の仕様等の条件指定について【2(1)②】

個人購入させる場合の、端末の仕様等の条件指定についての質問である。

メーカーや機種、OS等を「学校が独自に定めた」が48%、「自治体(教育委員会等)が定めた」が46%となるなど、購入させる場合は何らかの条件を提示している場合が多い。一方、「指定なし」は全体の6%にとどまっている。

### ③ 令和5年度中に整備(予定)される学年について【2(1)③】

既に「全学年」で整備済みの学校が63%と6割を超えており、昨年度の52%から11ポイント上昇している。「1～2学年」での準備を進めている学校が33%、「その他(1学年のみ)」が3%となった。

### ④ インターネット環境(Wi-Fi環境)の整備主体について【2(2)①】

Wi-Fi環境の整備主体(予算主体)についての質問である。

「自治体と連携しながら整備」が95%となっており、自治体からの予算措置での対応が多くを占めている。一方で、「学校独自に整備」との回答も5%あった。

### ⑤ 校内でのWi-Fi接続方法について【2(2)②】

「学校に申請(MACアドレス登録等)した端末のみ」が接続可能と回答した学校が50%と5割程になる一方、「設定ファイル等による認証」も33%にのぼった。

### ⑥ Wi-Fi接続可能な時間について【2(2)③】

時間帯を問わず「常時接続可能」が94%となっており、昨年の87%から7ポイント上昇している。一方、「登校時間から下校時間まで」との回答も4%あった。

### ⑦ インターネット環境が整わない家庭への支援等について【2(2)④】

「端末やルーター等の貸与」が59%となっているが、「特に行っていない学校」も31%と3

割を超えている。インターネット環境未整備の家庭への支援等が課題であることがうかがえる。

## (2) 1人1台端末導入に伴う生徒指導上の課題と対応の現状について

### ① 端末の個人認証の方法について【3(1)①】

「文字及び数字の組み合わせ(IDとパスワード)」という認証方法が99%を占め、「2段階認証」が残り1%となっている。昨年度回答のあった「個人認証はない」、「学校で特定の方法は指導せず任意の方法」に任せているとの回答はなくなった。

### ② 個人認証でのパスワードの指導について(複数回答)【3(1)②】

セキュリティ上、パスワード等が盗まれてトラブルに発展することを防ぐために、学校としてどのような指導をしているのだろうか。

「桁数や使用するキー等を指定して独自のパスワードを作成するよう指導」している場合が36%となっている。また「パスワードを他生徒に教えないよう指導」と回答した学校が48%、「パスワードを定期的に変更するよう指導」が10%あるなど、パスワードの重要性を啓発する指導が進んでいることがうかがえる。

### ③ 個人認証にかかるトラブルの発生について【3(1)③】

何らかのトラブルが「発生した」との回答が23%あった。

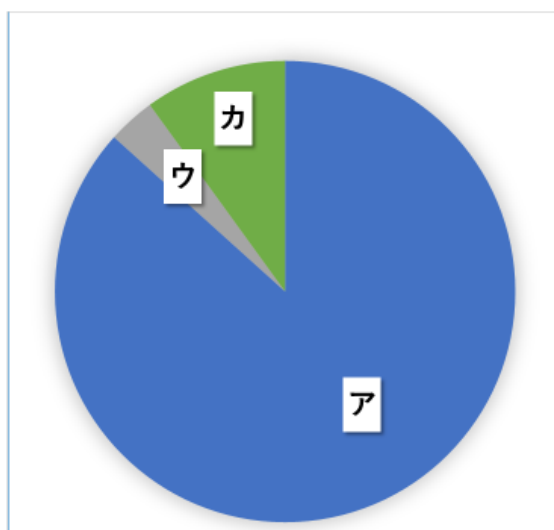
### ④ 個人認証にかかるトラブルの種類について(複数回答)【3(1)④】

前問でトラブルが「発生した」と回答があった学校で、どんなトラブルが発生したのか。

「自作したパスワードの忘れ」が87%を占めている。一方、パスワードを盗まれ「なりすまし(誹謗中傷等)」被害にあったとの回答も3%であった。

## 3(1)④

### 個人認証にかかるトラブルの種類(複数回答)



#### 【結果】%

ア 自作したパスワードの忘れ	...	87
イ IDやパスワードの外部流出	...	0
ウ なりすまし(誹謗中傷等)...	...	3
エ なりすまし(有害・違法サイトアクセス)	...	0
オ なりすまし(ネット決済や課金等)	...	0
カ その他	...	10

- 県や学校指定のパスワード忘れ
- 端末のパスワードを故意にご入力し、ロックをかけた
- パスワードを書いた紙を落とした

### ⑤ 端末の管理(保管)方法について【3(2)①】

端末の管理(保管)については、「生徒個人が保管・管理」しているとの回答が73%となっている。一方「学校で保管・管理」しているとの回答も24%あった。

⑥ 端末の管理・保管にかかるトラブルの発生について【3(2)②】

何らかのトラブルが「発生した」との回答が26%あった。

⑦ 端末の管理・保管にかかるトラブルの種類について(複数回答)【3(2)③】

前問でトラブルが「発生した」と回答があった学校で、どんなトラブルが発生したのか。端末の「破損」が56%、「付属品の破損、紛失、盗難」が22%となっている。

3(2)③

端末の管理・保管にかかるトラブルの種類(複数回答)



【結果】%

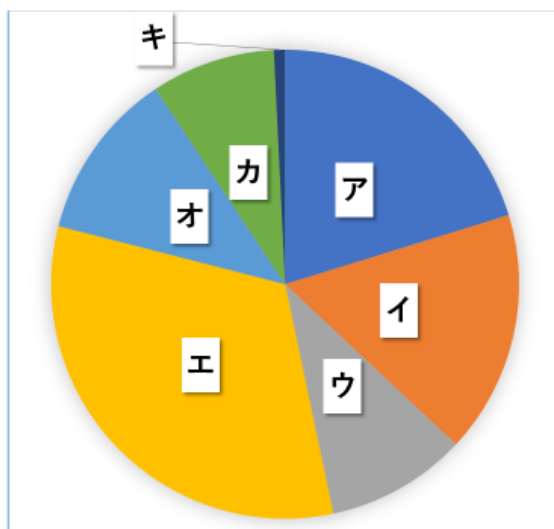
ア 破損	...	56
イ 紛失	...	16
ウ 盗難	...	5
エ 付属品の破損、紛失、盗難	...	22
オ その他	...	2
■ 充電の不十分など		

⑧ 端末が破損した場合の修理等について【3(2)④】

端末が壊れた場合、その修理等の対応についてはどうしているのか。次のとおりである。

3(2)④

端末が破損した場合の修理等



【結果】%

ア 学校で対応	...	20
イ 個人で対応	...	17
ウ 学校と個人で分担し対応	...	10
エ メーカーの保証サービスに加入し対応	...	32
オ 損害保険に加入し保険で対応	...	12
カ 自治体の対応	...	9
キ その他	...	1

⑨ 端末の家庭への持ち帰りについて【3(3)①】

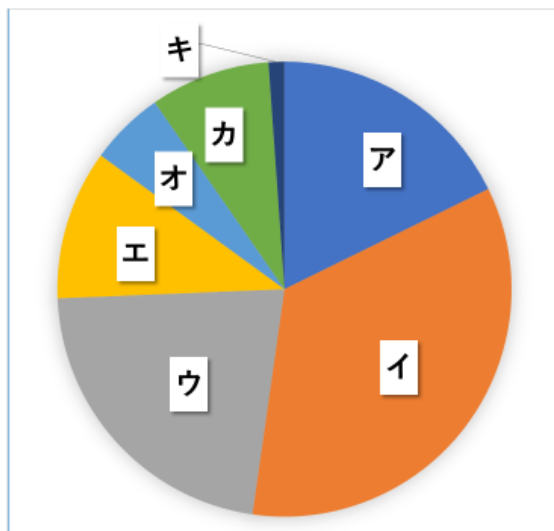
端末の家庭への持ち帰りを「認めている」との回答が92%であった。

⑩ 端末の家庭への持ち帰りを認めている理由について(複数回答)【3(3)②】

前問で端末の家庭への持ち帰りを「認めている」学校では、端末の家庭への持ち帰りをいかなる理由から「認めている」のだろうか。次のとおりである。

3(3)②

家庭への持ち帰りを認めている理由(複数回答)



【結果】%

ア 個人の私有物のため	...	18
イ 家庭での学習に活用	...	35
ウ 配布物等の閲覧に活用	...	22
エ クラスや部活動等の連絡に活用	...	11
オ 制限せず、自由に活用させるため	...	5
カ 学校で授業を受けることが困難な場合に対応するため	...	9
キ その他	...	1

■ 充電のため ■ 災害時対応のため

⑪ 端末の家庭への持ち帰りを認めていない理由について(複数回答)【3(3)③】

前問で端末の家庭への持ち帰りを「認めていない」学校では、いかなる理由から「認めていない」のだろうか。

「端末の盗難や破損、遺失防止」の目的が41%と一番多く、次いで「SNS等でのトラブル防止」が20%、「個人情報等の漏洩の防止」が10%の順となっている。

⑫ 端末を家庭へ持ち帰ることでのトラブルについて【3(3)④】

何らかのトラブルが「発生した」との回答が10%、「発生していない」が90%であった。

⑬ 端末を家庭へ持ち帰ったことで発生したトラブルについて(複数回答)【3(3)⑤】

前問で端末を家庭へ持ち帰ったことでトラブルが「発生した」と回答のあった学校では、どのようなトラブルが発生したのか。

「端末の盗難や破損、遺失」が72%と一番多く、次いで「長時間使用による健康障害」が7%、「SNS等でのトラブル(誹謗中傷など)」・「SNS等でのトラブル(著作権や肖像権侵害)」もそれぞれ7%となっている。

⑭ 端末のフィルタリングの管理について【3(4)①】

端末の貸与元やWi-Fi環境整備元である自治体(教育委員会等)のネットワーク上での対応が84%となっている。昨年度の回答は71%であり、13ポイントの上昇となっている。

⑮ フィルタリングにかかるトラブルについて【3(4)②】

何らかのトラブルが「発生した」との回答が3%であった。

⑯ フィルタリングにかかるトラブルの発生要因について【3(4)③】

トラブルの種類については「フィルタリングを回避するアクセス」が57%、「フィルタリングすべき対象の未設定」が20%だった。全高長調査では「フィルタリング機能の解除」が55%となっていたが、普通科高校では0%であったのは興味深い。

⑰ 著作権や肖像権にかかるトラブルについて【3(5)①】

何らかのトラブルが「発生した」との回答が8%であった。

⑱ 著作権や肖像権にかかるトラブルの種類について(複数回答)【3(5)②】

前問で何らかのトラブルが「発生した」と回答いただいた学校では、どのようなトラブルが発生しているのか。

「肖像の無断撮影や配信・掲載等」が66%と一番多く、次いで「著作物の複製・配信・掲載等」が24%、「住所や校名など個人情報等の判明」も10%あった。

⑲ その他のトラブルについて【3(6)①】

これまでに示した「個人認証」、「端末の管理」、「家庭への持ち帰り」、「フィルタリング」、「著作権・肖像権」にかかるトラブル以外では、どのようなトラブルが発生しているのだろうか。

「発生した」との回答が6%、「発生していない」が94%となっている。

⑳ その他のトラブルについて(自由記述)【3(6)②】

前問でトラブルが「発生した」学校での、トラブルの種類について伺った。

「学習以外での使用」「Air Dropにより意図しない相手に写真やファイルを送付」「SNS上での誹謗中傷」「自身の不適切画像をアップ」「長時間使用(依存)」などの回答を得た。

㉑ トラブルをどのように認知したか(複数回答)【3(7)①】

ネット上のトラブルは、その把握が難しく、把握した時には深刻な問題になっていることが多いと言われているが、各校ではどのようにしてトラブルを認知したのだろうか。

やはり「トラブル当事者からの訴え」が56%といちばん多くなっている。次いで「周囲の生徒等からの通報」が22%となっている。

「トラブル当事者の保護者」からが8%、「学校が実施したアンケート調査等」での認知も5%となっており、「その他」として「教員が発見」も多くの回答があった。

昨年と同様の質問をしているが、ほぼ同じような傾向を示している。

㉒ 外部機関との連携について【3(7)②】

ネット上のトラブルに対応していくためには、時として専門的知識を有する外部の機関との連携が必要になると考えられるが、トラブルが発生した学校の外部機関との連携状況はどのようなになっているのだろうか。

「連携なし」が74%と昨年度と同様の結果となっている。

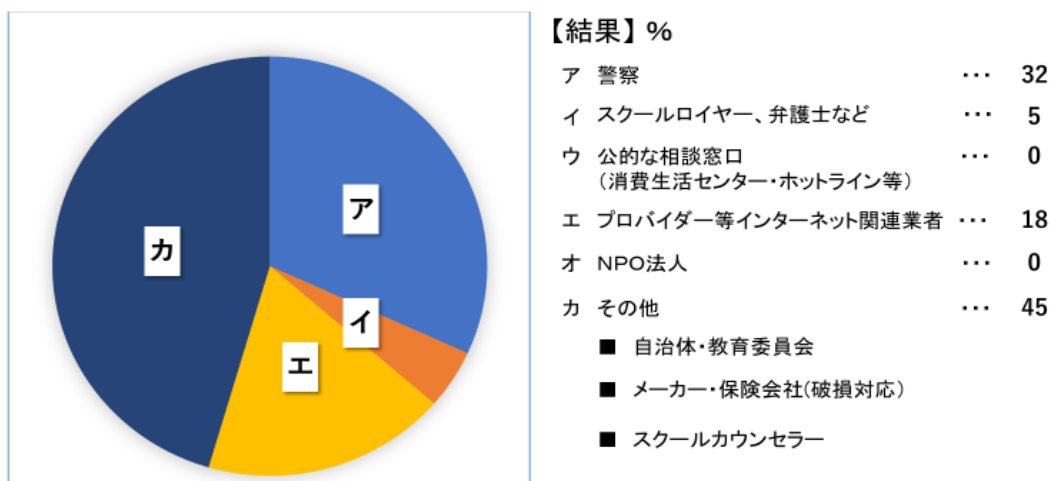
これはトラブルの内容が「端末の破損」や「目的外使用」などが多く、外部の専門家の力を借りる必要がなかったということか。

⑳ 連携を図った外部機関について(複数回答)【3(7)③】

前問で、外部機関と「連携した」学校では、いったいどのような機関と連携したのか。

「警察」が32%と多く、次いで「プロバイダー等インターネット関連業者」が18%、「その他」では「教育委員会」や「保険会社」などがあわせて45%となっている。

3(7)③ 連携を図った外部機関(複数回答)



㉑ 今後発生が懸念されるトラブルについて(複数回答)【3(8)①】

これまで生徒指導上のトラブルが「発生していない」と回答のあった学校について、今後どのようなトラブルの発生が懸念されるかについて伺った。

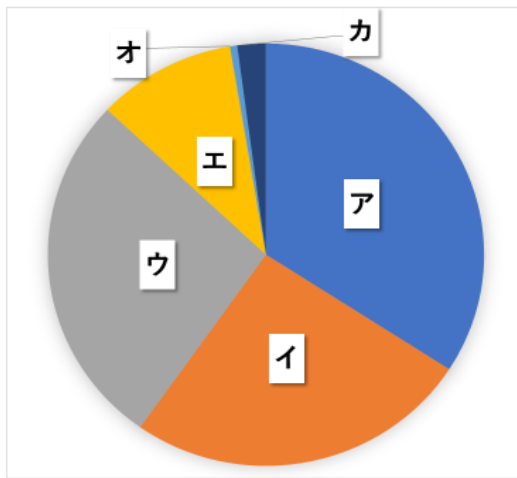
「端末の盗難や破損・遺失」が28%と最も多く、次いで「学習とは関係ない目的での使用」が22%、「SNSでの誹謗中傷、拡散、炎上等」が16%、「アカウントやパスワードの乗っ取り、個人情報漏洩等」が11%の順となっている。

㉒ 今後、連携を図ろうと考える外部機関について(複数回答)【3(8)②】

ここまで生徒指導上のトラブルが「発生していない」と回答のあった学校について、今後トラブルが発生した時は、どのような外部機関と連携を図るか伺った。結果は次のとおりである。

### 3(8)②

#### 今後、連携を図ろうと考える外部機関(複数回答)



#### 【結果】%

ア 警察	...	34
イ スクールロイヤー、弁護士など	...	26
ウ 公的な相談窓口 (消費生活センター・ホットライン等)	...	27
エ プロバイダー等インターネット関連業者	...	10
オ NPO法人	...	1
カ その他	...	2
■ 自治体・教育委員会		

#### ⑳ 18歳成年年齢引き下げに係るトラブルの発生について【3(9)①】

調査段階では、すべての学校で「発生していない」との回答であった。昨年度と同様である。

#### ㉑ 端末利用上のルールやガイドラインの設定について【3(10)①】

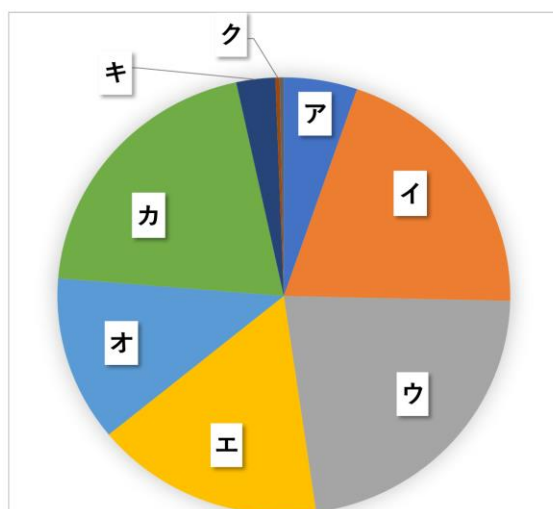
端末利用に関する生徒指導上のルールやガイドラインを「設けている」学校が85%、「今後設ける予定」が4%であった。参考までに昨年度調査では「設けている」学校は79%であった。

#### ㉒ ルールやガイドラインの内容について(複数回答)【3(10)②】

前問で、「設けている」と回答のあった学校に。その内容について伺った。次のとおり。

### 3(10)②

#### ルールやガイドラインの内容



#### 【結果】%

ア 使用時間について	...	5
イ 校内での目的外使用の禁止	...	20
ウ 機器、アカウント、パスワードの適切な取扱	...	22
エ 有害・違法サイトへのアクセス禁止	...	16
オ ネット上のファイルやアプリのダウンロード制限	...	12
カ 不適切な情報の投稿禁止 (写真や動画、個人情報、誹謗中傷等)	...	20
キ 家庭への持ち帰り制限	...	3
ク その他	...	1
■ 充電について		

#### ㉓ ルールやガイドラインの明文化について【3(10)③】

ルールやガイドラインを「設けている」場合、学校の校則や心得等に加えて「明文化してい



る」との回答が73%であった。昨年度の65%より増加している。

⑩ ルールやガイドライン策定の主体について【3(10)④】

前問で、「設けている」「準備を進めている」と回答のあった学校に、その策定の主体について質問した。「学校が作成し、生徒に指導した」が90%、「生徒や保護者の意向を取り入れ、学校が作成し、生徒に指導した」が6%となっている。

⑪ ルールやガイドライン策定の学校側の担当部署について【3(10)⑤】

前問で、「学校が作成し、生徒に指導した」と回答のあった学校に、策定の担当部署について伺った。「情報担当部署」が77%と一番多く、昨年度の76%とほぼ同様の結果となっている。「その他」として「校内で新たなチームを新設」したとの回答も複数見られた。

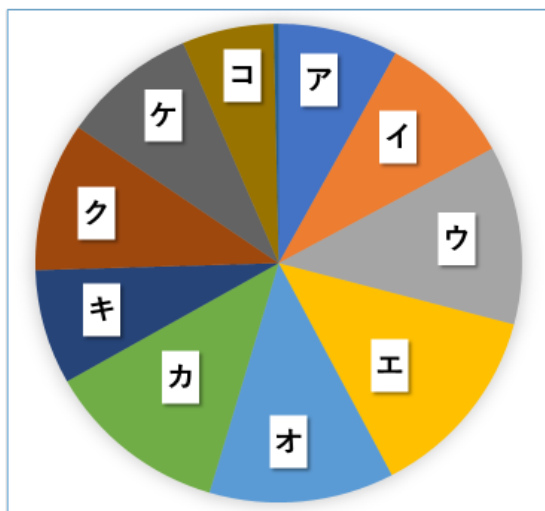
⑫ 家庭でのルールづくりについて【3(10)⑥】

家庭で端末利用に関するルールづくりを推奨しているかについての質問である。「取り組んでいる」が34%、「今後、取り組んでいく」が16%、「取り組んでいない」が50%であった。

⑬ 家庭でのルールやガイドラインの内容について(複数回答)【3(10)⑦】

前問で、「取り組んでいる」(予定含む)と回答のあった学校に、その内容について伺った。「相手を傷つけるような書き込みをしない」13%、「本人の許可無く撮影、録音、録画をしない」12%、「アカウントやパスワードを適切に扱う」12%、「個人情報を掲載しない」12%などの結果となっている。

3(10)⑦ 家庭でのルールやガイドラインの内容について(複数回答)



【結果】%

ア	家庭での利用時間	...	8
イ	フィルタリングや機能制限	...	9
ウ	アカウントやパスワードを適切に扱う	...	12
エ	相手を傷つけるような書き込みをしない	...	13
オ	本人の許可なく撮影、録音、録画をしない	...	12
カ	名前や学校名、住所などの個人情報を掲載しない	...	12
キ	年齢などの制限があるサイトを閲覧しない	...	8
ク	インターネット上のファイルはダウンロードしない	...	10
ケ	怖い思いや迷惑な思いをしたら、すぐ保護者に相談する	...	9
コ	保護者に相談なしにネットでの購入等の契約をしない	...	6
サ	その他	...	0

⑭ 端末利用に関して生徒指導で取り組むべきこと(複数回答)【3(11)①】

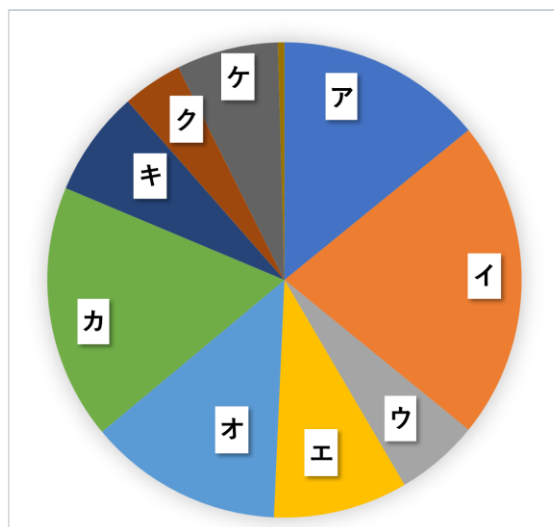
1人1台端末利用での生徒指導上の課題を解決するために、今後どのようなことに取り組んでいったらよいのか。

「メディアリテラシー向上や情報モラル教育充実のための指導計画の作成と指導」が22%、「全教職員のICT活用指導力向上のための研修」が17%、「ルールやガイドラインの策

定と周知」が14%と回答が多かった。昨年度と同様の傾向であった。

### 3(11)①

#### 端末利用に関して生徒指導で取り組むべきこと



#### 【結果】%

ア	ルールやガイドラインの策定と周知	…	14
イ	メディアリテラシー向上や情報モラル教育充実のための指導計画の作成と指導	…	22
ウ	定期的な実態調査(アンケート等)	…	6
エ	外部講師等を活用した指導	…	9
オ	保護者への周知・啓発活動	…	13
カ	全教職員のICT活用指導力向上のための研修	…	17
キ	生徒会活動等、生徒による自己啓発活動	…	7
ク	ネットトラブルに関する担当者の設置	…	4
ケ	生徒指導担当者や担任等によるR等での指導	…	7
コ	その他	…	0

#### ③⑤ 情報モラル教育で特に取り組んでいること(自由記述)【3(11)②】

前問で回答の多かったメディアリテラシー向上や情報モラル教育充実のために特に取り組んでいることについて伺ったところ、次のような回答をいただいた。

### 3(11)②

#### 情報モラル教育で取り組んでいること(自由記述)

#### 【結果】

- ・ 外部講師(警察・業者・教授等)による講演会等を実施
- ・ 新入生オリエンテーションや端末貸与時のガイダンス等で指導
- ・ 授業(主に「情報 I」)や集会での指導、啓発、注意喚起
- ・ 人権教育の重要な柱として取り扱っている
- ・ 保護者への啓発活動
- ・ 教員向けの研修を実施
- ・ ケースバイケースでその都度対応している

#### ③⑥ 教員の ICT 活用力を向上させるために特に取り組んでいること(自由記述)【3(11)③】

教員の ICT 活用力の格差をなくすために特に取り組んでいることについて、次のような回答をいただいた。

### 3(11)③ 教員のICT活用力を向上させるための取り組み

#### 【結果】

- ・ ICTサポーター(ICT支援員等)による職員研修
- ・ 外部講師を招聘した校内研修
- ・ 校内委員会による職員研修
- ・ ICT活用授業の公開授業
- ・ 校外研修(対面・オンライン)の受講推奨
- ・ 先進校視察

- ③⑦ 「デジタル・シチズンシップ」に関連して特に取り組んでいること(自由記述)【3(11)④】  
「デジタル・シチズンシップ」という観点から特に取り組んでいることについて、次のような回答をいただいた。

### 3(11)④ 「デジタル・シチズンシップ」に係る取り組み

#### 【結果】

- ・ デジタル・シチズンシップ講演会を開催
- ・ 学校独自でSNSの適切利用と人権侵害等をなくすための啓発日を設定している
- ・ 「情報 I」や「公民」の授業で、ネット上の情報の信頼性、デジタルコミュニケーションのルールなどを指導している
- ・ デジタル機器に「使われる」のではなく、主体的に使えるようになるための視点で指導している
- ・ 「デジタル社会」でより良く生きていくためにはどうしたらいいかを考えさせている

### (3) 1人1台端末導入に伴う生徒指導上の効果的な指導・支援について

#### ① 端末利用によるメリット(成果・効果等)について(複数回答)【4(1)①】

1人1台端末の利用を開始したことで、どのような成果があがっているのだろうか。

「生徒の情報活用能力や表現力の向上」が24%と最も多かった。次いで、「生徒の学習意欲や探究心の向上」が19%、「生徒一人一人へのきめ細かな指導による個別最適化の実現」が

16%と上位を占める。昨年度と同様の結果となっている。

#### 4(1)①

#### 端末利用によるメリット(成果・効果等)について(複数回答)



#### 【結果】%

ア	生徒1人1人へのきめ細かな指導による個別最適化の実現	...	16
イ	生徒の情報活用能力や表現力の向上	...	24
ウ	生徒同士のコミュニケーション能力の向上	...	7
エ	生徒の学習意欲や探究心の向上	...	19
オ	生徒の自主性・自律性の醸成	...	8
カ	不登校や不適応への多様で効果的な支援	...	9
キ	いじめや問題行動の減少	...	0
ク	生徒の学びと地域や社会とのつながり強化	...	7
ケ	日本語を母国語としない生徒等に対する言語支援	...	2
コ	遠隔地域の学校等との交流	...	7
サ	その他	...	0

#### ② 端末利用によるメリット(成果・効果等)の具体について(自由記述)【4(1)②】

成果・効果の具体については、次のとおりである。

#### 4(1)②

#### 成果・効果の具体的事例

#### 【結果】

- ・ 海外や遠隔地生徒とのオンライン交流
- ・ 教科、HR、部活動等でGoogleクラスルームの活用が定着
- ・ 保護者との連絡・連携ツールとしての活用も定着
- ・ 授業での議論や、意見等の共有に活用でき、消極的な生徒も積極的に参加できるようになった
- ・ 板書しや発言の苦手な生徒が授業に参加しやすくなった
- ・ 教室に入れない生徒や入院等長欠者への授業配信
- ・ 課題等をデジタル化することで、教員間で教材の共有が促進
- ・ 生徒が調査研究や分析に利用でき、探究活動が活発化した
- ・ 外国籍の生徒が翻訳機能を活用

#### ③ プラットフォームについて(複数回答)【4(2)①】

各校で利用しているプラットフォームについての質問。

「Google Workspace」が38%で利用率がいちばん高くなっている。

次いで、「Teams」が26%、「Classi」が21%、「ロイロノート」6%の順となっている。

#### ④ 特に困っていること(自由記述)【4(2)②】

端末整備が急速に進む中で、各校が特に困っていることについて回答を得た。次のとおり。

#### 4(2)② 特に困っていること

##### 【結果】

- ・ 初期設定・トラブル対応・管理等、担当教員の業務負担増
- ・ 教員のICT活用能力の格差
- ・ 貸与と購入(BYOD)が併存することでの業務の煩雑さ
- ・ Wi-Fi環境が脆弱で、多人数での教育活動が行えない。
- ・ 端末の故障などに対して迅速な対応ができにくい
- ・ 端末の老朽化への対応
- ・ 端末が破損した場合の対応
- ・ 端末のバッテリーの消耗の早さや、家庭での充電忘れ

#### ⑤ 生成AIの学校教育での活用について(自由記述)【4(2)③】

「チャットGPT」などの生成AIの学校教育での活用について回答を得た。次のとおり。

#### 4(2)③ 生成AIの学校教育での活用について

##### 【結果】

- ・ 国、自治体から示されるガイドライン等に従って対応していく
- ・ 現状、教育活動では使用しないよう指導している
- ・ 英語のディベート学習や探究学習の際に生徒が活用
- ・ 「有益or害悪」か、「得られる情報をそのまま信じていいのか」など、生徒に考えさせていきたい
- ・ 利便性と危険性を生徒に指導できるよう教員の研修が必須
- ・ 安易に頼ることで、生徒の思考力や表現力が低下する懸念
- ・ 道具の1つとして上手に活用できるよう工夫が必要
- ・ 教員の「働き方改革」に資する視点から導入したい

## 5 まとめ

(1) 調査研究の柱の1点目である「1人1台端末整備の状況等」についてはアンケート調査結果で示したとおりであるが、端末の準備については個人購入(BYOD)なのか学校(自治体)からの貸与なのかに大別された。今後どのように推移していくのか興味深い。

Wi-Fi環境の整備については自治体での対応が一般的なようである。

(2) 調査研究の柱の2点目「1人1台端末導入に伴う生徒指導上の課題と対応の現状」については、昨年度の「問題が発生していない」学校が70%という結果を受け、今回は改めてトラブルの様態ごとの質問とした。各校は、これまでスマートフォン等の指導で培った経験をいかしながら、校内セキュリティーの強化や外部機関等と連携するなどして、端末での生徒指導上のトラブルが発生しないよう工夫している様子が見えられた。

今後、生徒指導で取り組むこととしては、「メディアリテラシー向上や情報モラル教育充実のための指導計画の作成と指導」「全教職員のICT活用指導力向上のための研修」や「ルールやガイドラインの策定と周知」が高い数値を示している。ルールづくりについては、学校の情報担当部署の教職員が中心となって策定しているようであり、生徒指導担当者が作成した(する)との回答は9%と少なかった。また、「家庭でのルールづくり」の必要性も認められる。

(3) 調査研究の柱の3点目「1人1台端末導入に伴う生徒指導上の効果的な指導・支援」については、端末利用によるメリットとして、生徒1人1人へのきめ細かな指導による個別最適化の実現や生徒の学習意欲や探究心の向上、さらには不登校や不適應への多様な効果的な支援などが期待されている。

今後、1人1台端末整備の完了に向け、教職員のスキルの格差をなくすための研修や、「チーム学校」としての指導体制を構築するために校内連携、外部連携や、安全・安心な利活用に向けた生徒の自己指導力育成が求められるのではないだろうか。その指導の際には、「デジタル・シチズンシップ」という視点が重要になってくるものと考えられる。

また、生徒指導からは離れるが、Wi-Fi環境の整備や維持・管理、端末の管理、トラブル対応など、担当教員の業務負担の増加への対応が急務である。さらには教員のICT指導力の格差解消や端末のスムーズな更新なども早急な対応が必要ではないだろうか。

結びに、今回の調査研究に際し、ご多用の中、ご理解・ご協力を賜りました全国の普通科高等学校の校長先生方に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

全普高生徒指導研究委員会委員長  
茨城県立守谷高等学校長  
櫻井 隆之